名古屋青年
みつかる。つながる。よくなっていく。
No.821 2026
YMCA News 11
2026年11月1日発行
1952年5月13日発刊
毎月1日（月刊定価1部60円）
（購読料はYMCA会費に含まれています）
公益財団法人名古屋YMCA
〒464-0848
名古屋市千種区春岡1丁目2番7号
TEL052-757-3331 FAX052-757-3332
●発行人 中村 隆
●編集人 名古屋YMCA広報



キリスト教保育の恵みと、子どもたちの育ち



南山幼稚園　園長　斉田 真美

「子どもたちを私のところに来させなさい。」この聖句（マタイ19:1）は、幼稚園での保育について思いを巡らすとき、いつも心に浮かぶ聖書箇所です。イエス様が子どもを深く愛し、受け入れてくださった姿は、南山幼稚園のホールにあるステンドグラスにも刻まれています。子どもたちを呼び寄せ、頭にそっと手を置き、祝福をされるイエス様の姿を見つめるたび、この地で90年以上守られてきた「キリスト教保育」の恵みを思わずにはいられません。

幼稚園では、子どもたち一人ひとりの良さが認められ、愛され、安心して自分を発揮できる場所でありたいと願って保育をしています。日々の園生活の繰り返しの中で得られる安心感を基に主体的な遊びを通して周囲の人と関り、考え、共に生きる力を養いたい。また、行事のような、日常とは違う様々な経験を通して、共に支え合い、助け合って育ち合う事が出来ればと願って保育をしています。できるようになる事に焦点を当てるのではなく、そこに至るまでの過程で何を得たかが大切なのだと日々感じています。知識を得るためだけの場ではなく、人と比べる場でもなく、共に育ち合う場であること。その思いは、物事の価値がコスパやタイパで測られがちな今の時代にあって、なおさら大切になっています。心を動かし、経験を通して自分と他者を大切に思う心を育むことは、私たち保育者に託された大切な役割です。

南山幼稚園には、小さくても自然の恵みに満ちた園庭があります。耳を澄ますと小鳥のさえずりが聞こえます。秋になると木から落ちてくる木の葉やドングリなどの木の実も神さまからの贈り物です。神さまは、形も色も一つとして同じ物が無い、一つひとつ違う実りを通しても“みんなちがってみんないい”事を示されているのではないかと思います。

その自然の恵みのひとつである、みどり門の横に立っていた大きなドイツトウヒの木が、樹齢を重ね、倒木の恐れがあり、今年の冬に切り株に姿を変えました。切り株を囲んで年輪を数えたところ、「すごい！80年以上？」と目を輝かせる子どもたち。創立以来、幼稚園に通った多くの子どもたちを見守ってきたその木は、今も子どもたちのお気に入りの場所となっています。切り株の断面をよく見ると年輪の幅が広い時も、薄い時もある事に気付きます。人の成長もまた同じで、外からは見えなくても、内側では確かに成長を刻み続けていることを忘れてはならないと、“見えないものに目を注ぐ”キリスト教保育の視点を、切り株になった今でも、私たちに示してくれています。

一日一日の歩みが、やがて大きな木となるように。子どもたちが自分らしく、互いを思いながら、心豊かに伸びやかに育ち合う場所であり続けることを願って止みません。ホール前の踊り場に立ち、見上げると、そこにも南山幼稚園を象徴するステンドグラスがあります。イエスさまと、様々な民族の子ども、そしておとなも手を繋いで地球の上に立っているその姿は、YMCAの精神に繋がっています。神さまから与えられた日々を子どもたちと共に、そして保育を共に担う教職員、YMCAの仲間と共に歩んでいきたいと願っています。



熊本地震で被災した子どもたちのためのキャンプ

あおぞらキャンプ

9月19日から21日の3日間、熊本YMCAの阿蘇キャンプで行われた被災地支援のリフレッシュキャンプが行われることとなり、被災した子どもたちの力になりたいという思いで参加しました。全国からリーダーが集まり、限られた時間の中で、どんなキャンプにしたいか、そのためにどんなプログラムをしたら良いかをたくさん話し合いました。このキャンプで大切にしたことは、キャンプでできた仲間や思い出が、日常に戻った子どもたちの生きる力となるようにすることです。子どもたちが暮らす八代市は、地震の被害で今でも自由に遊ぶことができない状況が続いています。3日間のキャンプでは、山登りや川遊び、キャンプファイヤー、花火など、思い切り自然の中で遊びました。いつもと違う環境でのびのびと遊び、弾ける笑顔が見られる一方で、子どもたちと過ごし、話をする中で、それぞれが悲しい思いや不安を抱えていることにも気づきました。いろいろな思いを持った子どもたちに向き合い、寄り添えるよう一瞬一瞬を大切に過ごしました。別れが近づくにつれて、どうしたら非日常のキャンプから現実に戻った時に喪失感を感じさせないお別れができるかをより考えるようになりました。かたちに残るものとして、グループで1つ旗を作り、人数分に切って一つずつお守りとして持ち帰り、「また会ったらくっつけようね」という約束をして帰ってきました。このキャンプを経て、安心して過ごせる中で、仲間とつながり自分らしく思い切り楽しむ場が心のリフレッシュになると実感しました。そして、その経験を持って日常に戻っていくことも子どもたちの力や希望につながると思います。最初は、自分が子どもたちの心に何かいいものを届けたいと思って参加しましたが、3日間を通して、逆に子どもたち自身が持っている力に元気をもらいました。熊本で出会った子どもたちと過ごした時間を忘れず、これからの活動に生かしていきます。

藤谷 京香（きょんリーダー）
伊藤 莉子（ちゅらリーダー）

八代市の子どもたちのあおぞらキャンプ

7月28日熊本県で大きな地震がありました。夏休みに楽しみにしていた予定がなくなった子も多くいます。そのため、日常から離れたキャンプ体験に加え、夏休みの楽しい思い出をここで体験してほしいという願いもあります。被害が大きく、現在も避難所が残る八代市の小学生のために、全国から13名のリーダーとスタッフが集まりました。



Road to 125

ワイズは出会いとつながり

野村 靖子

東海ワイズメンズクラブ会員



YMCAとの最初の関わりは、65年前、私達の結婚式でした。上前津の名古屋YMCA会館の5階のチャペルで、御器所教会の土岐林三牧師に司式をして頂きました。既に夫は名古屋ワイズメンズクラブの会員でした。私も例会に出席してクラブ会員のメネット（ワイズメンの夫人等の会）になりました。会員の中でも年輩であった花村美樹先生、中田先生は毎月夫婦で出席されていて私達の将来像として憧れました。

あの時代は、転勤で名古屋に来られた企業の方々がワイズメンズクラブに入会され、メンバー活動もメネット会も盛況でした。ある時、尾関明・静枝夫妻の愛知牧場でピクニック行事があり、「弁当は家族分プラス1名分を用意して下さい、持って来れない方の為です。」と連絡がありました。優しい心遣いのあるクラブでした。

名古屋クラブの人数が増え、若手で新しいクラブを作る事になり、名古屋東海ワイズメンズクラブが設立されました。夫人達はまだ子供が小さくなかなか集まれませんでした。その後、南山クラブが設立され、2つのクラブの交流で集まりました。南山メネットの方に雛祭の雛菓子「おこしもの」作りを教わりました。木型に米粉を練ったものを詰めて蒸して色付けをするのです。昔の木型も見せて頂きました。懐しい想い出です。

15年前、メネット事業主任の大役が回ってきました。東日本大震災の翌年の事でした。震災支援の一助となるよう「こころのケアを考える」講習会を、西日本各地のYMCAで開催しました。支援に行く若者達を対象に想定して、一般に公開する形で行いました。各地のYMCAで開催し、現地で支援活動をした若手主事に現地の報告をしていただきました。地元のYMCAだけでなく、各地の若い主事の方とつながりが出来た事をうれしく思いました。

YMCAのいろいろな行事への参加は、最初は夫の役目への協力のつもりでしたが、途中から自然に私との出会いやつながりも出来てきました。道すじをつけてくれた夫に感謝。支えて下さったYMCAのスタッフとワイズの皆さんに心から感謝申し上げます。

日本語学院 お国だより

インドネシアの家庭料理



インドネシア料理といえば、豊富な香辛料を使った、香り豊かで個性あふれる味わいが特徴です。今回は、私のおすすめのインドネシアの家庭料理「スムール・ジェンコル」と「ペペス・イカン」を紹介します。



スムール・ジェンコルは、ジリン豆(ジェンコル) を甘辛い味付けでじっくり煮込んだ料理です。濃厚な味がご飯によく合い、ついつい箸が進みます。特に母が作るスムール・ジェンコルは、味付けが絶妙で、私にとって一番おいしい一品です。

ペペス・イカンは、魚と香辛料をバナナの葉で包んで蒸したり焼いたりする料理です。葉を開くと香辛料の豊かな香りが広がり、魚のうま味とスパイスの風味を楽しめます。こちらも母の作るものが一番のお気に入りです。



この二つの料理は、私に家族や故郷を思い出させてくれる大切な味です。皆さんもインドネシアを訪れたら、ぜひ現地の料理を味わってみてください。（レザさん）

連載 事業所紹介

発達サポートYMCAかみさわ

発達サポートYMCAかみさわは、2025年1月に鶴里から移転をして２年足らずになります。かみさわ保育園の3階、階段を上って「疲れたぁ」と言いながらも、みんなここに来ることを楽しみにしてくれています。

現在、年長児から高校1年生まで幅広い年齢の子ども達が通所しています。自由遊びの時間には、みんなでマットを使って家を作ったり、レゴで変身ベルトや剣、乗り物などを作って遊んだり、時には大人が感心するような作品を作り上げる子も…子ども達の想像力に驚かされています。

先日のプログラムでも、カプラを使って豪華な家や橋を作っていました。一人ひとりこだわりがあり、頑張ったところを紹介する子ども達の自慢げな顔が、とても輝いていました。一人ひとり特性は違いますが、学校ではできない体験や関わりができる場、そして仲間同士の助け合いの場になっていると嬉しいなと思います。

日々たくさんのご支援ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（鈴木 茜音）



総主事コラム

山の恵み、海の恵み

10月の三連休、全国YMCAリーダー研修会が開催され、三浦半島を訪れました。会場となった三浦YMCAグローバルエコビレッジは山側のヒルサイドと海側のシーサイドに分かれており、ヒルサイドの前方には広大な畑が広がっています。

三浦半島は、キャベツと大根の栽培が有名で、畑には種がまかれ、芽吹き、苗となり、さらに植え替えられて大きく成長する姿を見ることができました。陽光に照らされた大地の豊かな恵みと、そこで汗を流す農家の方々の姿には、感動すら覚えます。

最寄りの三崎口駅からセンターへ向かう途中、倒壊した家屋が手つかずのまま残されている光景を目にしました。この地域では、台風25号の影響で9月21日に大雨が降り、土砂崩れが発生し、三浦市だけで2名の方がお亡くなりになられました。目の前の畑の一角でも、林が崩れて土砂崩れを起こし、その部分だけが不自然に途切れています。幸いにも人的被害はありませんでしたが、大地はすべてつながっており、時には災害をもたらし、時には豊かな収穫の恵みを与えてくれます。

一方、シーサイドの前は相模湾が広がり、天気が良ければ富士山をはっきり望むことができます。この日は快晴で、隙間の時間を利用してウエットスーツに身を包み、しばしスキンダイビング。10月の海はそれほど冷たくなく、実は透明度も高く快適です。残念ながら、豪雨の影響で浅瀬はやや濁っていましたが、ムラサキウニの群生の中に食べごろサイズのサザエがちらほら。刺身にするか、壺焼きにするかと思い巡らしながら、漁業権を尊重し、収穫は断念いたしました。

研修会ではリーダーたちが熱い議論を交わしていますが、一歩外に出れば、自然は様々な事を教えてくれます。三崎港は全国有数のマグロの水揚げ港として知られ、駅前ではサザエが大安売り。議論は若者に任せて、私は食を通して自然の恵みと地域の暮らしを、もう少し学びたいと思います。

（中村 隆）

宝くじテント寄付への感謝

宝くじ協会よりテントのご寄付をいただき、心より感謝申し上げます。

寄付していただいたテントは、YMCAが運営する幼稚園・保育園の行事やイベントの際に、子どもたちや保護者の皆さまが安心して過ごせる場所として活用しています。また、夏季期間には、子どもたちがプールで水遊びを楽しむ際の日よけとして使用し、強い日差しを避けながら、快適に活動できる環境づくりに役立てています。

子どもたちにとって、園での行事や水遊びは、友だちや先生と楽しい時間を共有し、さまざまな経験を通して成長する大切な機会です。今回ご寄付いただいたテントは、そうした日々の活動を支えるとともに、子どもたちが安全で楽しく過ごせる環境づくりに大きく貢献しています。

温かいご支援に深く感謝申し上げます。今後もテントを大切に活用し、子どもたちの笑顔あふれる園生活と、豊かな成長を支えてまいります。　（担当スタッフ　小島 陽）



名古屋YMCA創立125周年記念事業が始まります

1902年1月15日に誕生した名古屋YMCAは、2027年に創立125周年を迎えます。創立125周年は、名古屋YMCAが次の100年へ向けて歩み出すための大切な節目です。これまで支えてくださったすべての方々への感謝を胸に、歴史を受け継ぎながら未来を切り拓いていく一年として歩んでまいります。年間を通じて様々な記念事業を実施する予定です。まずは2027年1月5日の「125周年記念新年礼拝」にぜひご参加ください。

■125周年記念 新年礼拝

日時：2027年1月5日（火）10:00〜11:30
会場：名古屋教会（名古屋YMCA発会の地）

125 年前、名古屋 YMCA の歩みはここから始まりました。創立の原点に立ち返り、先人たちの祈りと献身に感謝するとともに、これからの名古屋 YMCA の働きのために祈りを合わせる機会としたいと願っています。会員、ボランティア、卒業生、関係者の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

維持会員感謝・ご寄付感謝

※ご寄付をいただくタイミングによっては、掲載が前後する場合がございますのでご容赦ください

維持会員（継続）
榎田　勝利　　浅野　猛雄　　近藤　保彦　　鈴木　賢治　　髙橋　榮一　　林　左希也　　中根　和隆　　下村　明子
坂口　功祐

寄付金・募金
（学童キャンプ）　多湖　みずほ　　藤田　瑠美
（チャリティーラン）　名鉄六合株式会社　　ALSOK愛知株式会社　　株式会社名エングループ本社　　矢作建設工業株式会社
日立建機日本株式会社　　株式会社ヤマセイ　　古屋ワイズメンズクラブ　　東海ワイズメンズクラブ
東海ワイズメンズクラブ
（熊本緊急支援募金）　中根　和隆　　清水美佐子　　加藤　明宏
松浦　　剛　　日本基督教団名古屋教会
日本基督教団桃山教会

早天祈祷会
日　時　12月1日（火）7:45〜
会　場　名古屋YMCA5Fチャペル
奨　励　下村 徹嗣先生

お問い合わせ

名古屋YMCA	052-757-3331
YMCAこひつじ保育室	052-757-5530
南山ファミリーYMCA	052-831-6968
南山幼稚園	052-831-8271
神沢ファミリーYMCA	052-879-6300
YMCAかみさわ保育園	052-879-6222
名古屋YMCA日本語学院	052-531-0077
発達サポートYMCAかみさわ	052-879-6300
かりやYMCA保育園	0566-62-8227

https://nagoyaymca.org

名古屋YMCA使命
「名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。」

2026年度聖句
「平和を実現する人々は、幸いである。」
マタイによる福音書　5章9節